

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(四十点)

受験番号

この部分は著作権の関係で掲載できません。

受験番号

問一 〰線部 a e のカタカナを漢字に直せ。

a	b	c	d	e
---	---	---	---	---

問二 文中の (A) (C) に入る語として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えよ。

ア・つまり イ・しかし ウ・なぜなら エ・しかも オ・いわゆる カ・たとえば

A	B	C
---	---	---

問三 〰線部 「その小さな行為が、それまでの何の変哲もなく見えていた学生たちの顔を一瞬、美しいものに変える」とあるが、「小さな行為」によつて美しく変わった「学生たち」を端的に言い換えている語句を文中から十四字で抜き出せ。

--

問四 〰線部 「自動ドア」の便利さによつて、逆に人間の内面に生み出されてしまったものは何か。文中から六字で抜き出せ。

--

問五 〰線部 「文明というものは、自分だけで生きて行ける世界を作る」ことをその一つの目標としている」とあるが、その目標によつてもたらされるマイナスの影響は何か。文中の語句を用いて二十字以内で答えよ。

--

問六 □を補うのに最も適当なものを、前後の文脈に注意して、次の中から選び、記号で答えよ。

ア・心 イ・人 ウ・支 エ・共

--

問七 〰線部 「忘れ物」とあるが、若い母親の「忘れ物」についてまとめられている部分を母親の感想の中から三十字以内で抜き出し、最初と最後の三字を答えよ。

--

問八 〰線部 「愛」を筆者はどうすることだと定義しているか。最も端的に述べられている部分を文中から三十字以内で抜き出し、最初と最後の三字を答えよ。

--

問九 〰線部 「愛を生む苦しみも、必ず大きな喜びに変えられる」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア・愛のないところに愛を生み出すことは、自分だけの世界に閉じこもりがちな人間には難しいが、そうすることによって、自分が生きていることを実感できること。
- イ・自分が望むものを相手に与えることは、自己中心的に生きようとする人間には難しいが、そうすることによって、お互いを思いやる優しさを実感できること。
- ウ・自分の時間や労力を他人のために差し出すことは、他人に対して無関心な人間には難しいが、そうすることによって、他人の役に立てるうれしさを実感できること。
- エ・自分から一歩踏み出し他人を思いやることは、与えられることを待っている人間には難しいが、そうすることによって、人に何かを与える感動を実感できること。

--

問十 本文の内容として正しいものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア・文明の所産は数多くの便利さを与えてくれた代わりに、真に人間的な魅力を失わせてしまった。
- イ・昔に比べて日本人は「きれい」になってきており、それに比例して優しい人も増えてきている。
- ウ・若い母親はボランティアに行き、弱い立場にある人を支えなければならぬことに気がついた。
- エ・思いやりは、お互いを必要としていることに気づき、与えあうことによつて生まれ育っていく。

--

受験番号

□ 次の文章は、春野台高校陸上部の神谷新一(俺)が、部長の守屋さんから次期部長に指名された場面である。これを読んで、後の問いに答えなさい。(四十点)。

この部分は著作権の関係により掲載できません。

受験番号

問一 〰線部 a、b の意味として最も適当なものをそれぞれ次の中から選び、記号で答えよ。

- a 「いかめしい」【ア・穏やかな イ・威厳のある ウ・偉そうな エ・恐ろしい】
 b 「おざなり」【ア・いい加減に イ・自分勝手に ウ・後回しに エ・人任せに】

a	
b	

問二 () A () () C () を補うのに最も適当なものをそれぞれ次の中から選び、記号で答えよ。ただし、同じ記号は一度しか使わないこととする。

- ア・がっしり イ・さらり ウ・どっしり エ・くつきり

A	
B	
C	

問三 〰を補うのに、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア・石二鳥 イ・他力本願 ウ・相乗効果 エ・以心伝心

--

問四 〰線部 「守屋さんは呆れた顔をした」とあるが、このときの心情として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア・いつでも走ることしか考えていない、練習好きな神谷に感心する気持ち
 イ・才能がありながらも、謙虚に努力を続ける神谷に対するうらやましさ
 ウ・練習好きの自分よりも、さらに走ることが好きな神谷に対する驚き
 エ・身体を気かけず、ひたすら走り続けようとする神谷に対する心配

--

問五 〰線部 「面白いよな、部ってな」とあるが、その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア・たとえ部員は変わったとしてもその伝統や持ち味は受け継がれていくから。
 イ・みっちゃんの高校生時代を容易に想像できるくらい慣れ親しんだ部だから。
 ウ・練習好きな部員が入部してきて互いに高め合える環境が自然にできるから。
 エ・自分の好きなことだけに取り組むことのできるかけがえのない場所だから。

--

問六 〰線部 「おまえらが入ってきたとき、心配だったよ。おまえと一ノ瀬。特に一ノ瀬」について、

- (1) 「一ノ瀬」の人柄を端的に示した表現を文中から七字で抜き出せ。
 (2) 何が「心配だった」のか。文中の語句を用いて四十字以内で説明せよ。

--

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

問七 〰線部 「守屋さんの口から聞かされるんじゃないかな。うんざりしそうな究極の正論だ」とあるが、なぜ守屋さんから聞かされるとうんざりしないのか。文中の語句を用いて、解答欄の形式に合うように二十字以内で説明せよ。

守屋さんが

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

問八 〰線部 「4 継よりマイルより重いバトンを受け取った気がした」とあるが、ここでの「俺」の心情として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア・尊敬する守屋さんから次期部長に指名され陸上部の今後を託された喜び
 イ・自分を信頼してくれる守屋さんの期待に責任をもって応えたいという自覚
 ウ・部員の支えだった守屋さんを超える部長になれるかどうかわからない不安
 エ・今後は競技よりもチームをまとめることに力を尽くそうという決意

--

問九 〰線部 「ここをいい場所にしてくれ」とあるが、守屋さんの言う「いい場所」とはどのような場所か。文中の語句を用いて五十字以内で説明せよ。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

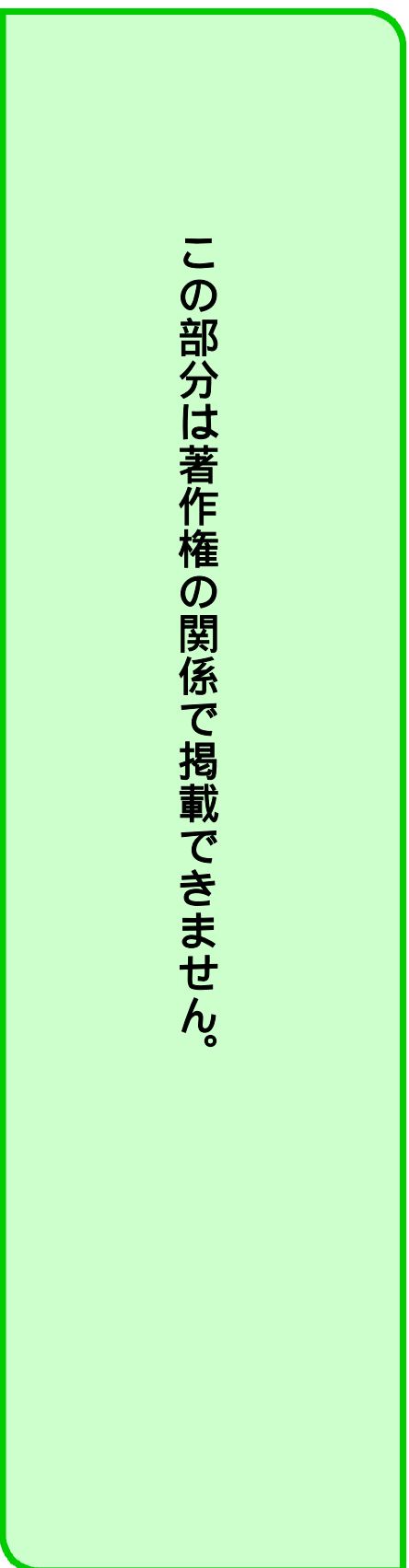
問十 本文の特徴として正しいものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア・誰よりもひたむきに陸上部の練習に取り組む神谷の姿が、守屋さんの視点を通して客観的に描写されている。
 イ・その場に登場しない一ノ瀬連の存在によって、たとえ天才であっても努力が必要であることが示されている。
 ウ・守屋さんと神谷の心情を象徴する空や風の描写を用いることで、二人の心の交流が生き生きと表現されている。
 エ・会話表現を展開の中心にして、守屋さんの陸上部への熱い思いが神谷へと受け継がれる様子が描かれている。

--

受験番号

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(二十点)



この部分は著作権の関係で掲載できません。

問一 〰線部「名残」の読みを答えよ。

問二 〰線部「これ」「それ」の指示内容をそれぞれ十字以内で答えよ。

問三 空欄 (A) (B) に入る最も適当な語を、それぞれ文中から漢字一字で見つけ出し答えよ。

A	
B	

問四 〰線部「この年ごろ」の意味する期間として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア・一～二年 イ・三～四年 ウ・六～七年 エ・十年以上

問五 〰線部の「子を思ふ闇」の「闇」の意味と同じものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア・月のころはさらなり。闇もなほ螢の多く飛びちがひたる。
- イ・照らす日を闇にみなして泣く涙衣濡らしつつ人なしに
- ウ・月も出でて闇に暮れたるこの山に何とて今宵尋ね来つらむ
- エ・人の親の心は闇にあらねども子を思ふ道にまどひぬるかな

問六 〰線部「情けの色」の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア・表情 イ・愛情 ウ・純情 エ・風情

問七 文中の和歌・ の関係の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

- ア・では子供を忘れず帰って欲しいと訴えたのに対して、では男への気持ちは変わらないが会えないつらさを表している。
- イ・では闇をさまよい抜け出せず悩みが深い事を訴えたのに対して、では森の中の孤独な暮らしの寂しさを表している。
- ウ・では夜にしか会えない切なさを訴えたのに対して、では男の優しさに心打たれ感極まって泣いている様子を表している。
- エ・では子供の成長を見に来て欲しいと訴えたのに対して、では遠くからでも見守ろうとする決意の固さを表している。

--

問八 〰線部「年ごとに満作なり」の意味を答えよ。

--

問九 本文の内容として正しくないものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア・男は住吉神社参りの帰途一人の美女に出会い、親しくなつて夫婦となり、その後一子をもつけた。
- イ・子供が五歳になった時、母はつい正体を現し恥ずかしく思い、そのまま森の中へと身を隠してしまった。
- ウ・泣きながら和歌を詠む男の声を、隣家の窓際で聞いた妻は感動し、返歌を詠みながら一人で泣いた。
- エ・男が田を耕すと、いつの間にか苗が植えられ水も引かれ、さらに雑草も抜かれるなど田が手入れされた。

--

問十 本文の出典「浮世物語」は江戸時代に書かれた小説である。次の中から江戸時代に書かれた作品を一つ選び、記号で答えよ。

- ア・竹取物語 イ・徒然草 ウ・おくのほそ道 エ・平家物語

--